



Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.3

ガバナンスインストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform に Red Hat JBoss Fuse 用のガバナンスをインストールする

Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.3 ガバナンスインストールガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform に Red Hat JBoss Fuse 用のガバナンスをインストールする

JBoss A-MQ Docs Team

Content Services

fuse-docs-support@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2016 Red Hat.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本ガイドを使用して、Red Hat JBoss Fuse 6.3 にガバナンスパッケージをインストールする方法を説明します。

目次

第1章 JBOSS FUSE ガバナンスのインストールの概要	3
RED HAT JBOSS FUSE 6.3 のガバナンスパッケージ	3
第2章 READ ME	4
2.1. データのバックアップ	4
2.2. RED HAT ドキュメントサイト	4
2.3. EAP_HOME	4
2.4. MODE	4
第3章 RT-GOV	5
前提条件	5
JBOSS FUSE 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス	5
JBOSS FUSE SERVICE WORKS 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス	5
JBOSS EAP での JBOSS FUSE 6.3 のインストール	6
JBOSS EAP への KIE-EAP のインストール	6
RT-GOV サーバーコンポーネントのインストール	6
RT-GOV クライアントコンポーネントのインストール	7
RT-GOV データベース	8

第1章 JBOSS FUSE ガバナンスのインストールの概要

RED HAT JBOSS FUSE 6.3 のガバナンスパッケージ

Red Hat JBoss Fuse 6.3(JBoss Fuse)のガバナンスパッケージは、既存の Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.2(JBoss Fuse Service Works)のお客様のみが利用できます。

RT-Gov 用のサーバーおよびクライアントコンポーネントのパッケージの Governance パッケージ。Governance コンポーネントパッケージは、JBoss EAP 6.4 の JBoss Fuse 6.3 にインストールする必要があります。これらは Karaf インスタンスの JBoss Fuse 6.3 では使用できません。

第2章 READ ME

2.1. データのバックアップ



警告

Red Hat は、本ガイドに記載の設定タスクを実施する前に、システム設定とデータをバックアップすることを推奨します。

2.2. RED HAT ドキュメントサイト

Red Hat の公式ドキュメントサイトは、にあり <https://access.redhat.com/documentation/en/> ます。これには、すべてのガイドの最新バージョン（このバージョンを含む）を探します。

2.3. EAP_HOME

EAP_HOME JBoss Fuse がデプロイされる Red Hat JBoss Enterprise Application Platform インストールのルートディレクトリーを参照します。

2.4. MODE

MODE JBoss EAP のインスタンスが稼働しているモードを参照します **MODE**。は、**standalone** または **domain** ます。詳細は、**MODE** 「[JBoss EAP Operating Modes](#)」を参照してください。本書のファイルパス **MODE** に表示される場合は、スタンドアロンまたはドメインを置き換えます。

第3章 RT-GOV

rt-Gov はランタイムガバナンス機能を提供します。インストールには、サーバーとクライアントコンポーネントパッケージの両方が含まれます。**jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-server-installer.jar** これは、RTGov サーバーとクライアントコンポーネントのバンドルで、クライアントのみで **jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-client-installer.jar** 構成されます。

RTGOV サーバーコンポーネントのみを使用する必要がある場合は、スイッチを切り替えず **jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-server-installer.jar** に JBoss EAP インスタンスにインストールできます。この設定は組み込まれたクライアントを使用せず、他のリモート JBoss EAP インスタンスにある rtgov-client からのみ情報を収集します。

RTGov Client が必要な場合は、SwitchYard から情報を収集できるように SwitchYard を持つ JBoss EAP インスタンスに RTGov クライアントをインストールする必要があります。

前提条件

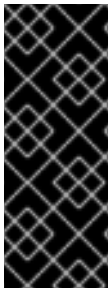
RT-Gov サーバーおよびクライアントパッケージをインストールする前に、JBoss EAP 6.4 のインスタンスにインストールする必要があります。

- JBoss Fuse 6.3 をインストールする EAP ベースパッケージの Red Hat JBoss Fuse 6.3.0

詳細 「[JBoss EAP での JBoss Fuse 6.3 のインストール](#)」 はを参照してください。

- 必要な Drools コンポーネントをインストール **kie-eap-installer-6.4.0.Final-redhat-10.jar** する

詳細 「[JBoss EAP への kie-eap のインストール](#)」 はを参照してください。



重要

RT-Gov サーバーおよび RT-Gov クライアントコンポーネントは、JBoss EAP の独自のインスタンスにインストールする必要があるため、同じホストマシンにインストールされている場合に、これらの JBoss EAP インスタンス上のポート番号が競合しないようにする必要があります。これを行うには、『Red Hat JBoss EAP 管理および設定ガイド』の「ポートオフセットの [設定](#)」で説明されているように、ポートオフセット機能を使用します。

JBoss Fuse 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス

アカウントを登録していない場合は、「[Software Downloads](#)」ページにアクセスする前に操作を求められます。

1. [ここ](#) をクリックして Red Hat Fuse **Software Downloads** ページにアクセスします。
2. アカウントにログインするか、登録してアカウントを開き、ログインします。
3. Fuse が **Product** ドロップダウンメニューに表示され、6.3.0 が **Version** ドロップダウンメニューに表示されます。

選択した Fuse バージョンのダウンロードはすべて、ダウンロードファイルテーブルに表示されます。

JBoss Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス

アカウントを登録していない場合は、**Software Downloads** ページにアクセスする前に、これを要求されます。

1. [ここ](#) をクリックして Red Hat Fuse **Software Downloads** ページにアクセスします。
2. アカウントにログインするか、登録してアカウントを開き、ログインします。
3. **Product** ドロップダウンメニューを展開し、利用可能な製品のリストから **Fuse Service Works** を選択します。
4. **6.3.0** が **Version** ドロップダウンメニューに表示されることを確認します。

選択した **Fuse Service Works** バージョンのダウンロードはすべて、ダウンロードファイルテーブルに表示されます。

JBOSS EAP での JBOSS FUSE 6.3 のインストール

1. Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページにアクセスします（詳細はを「[JBoss Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス](#)」参照してください）。
2. Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.3.0 Components for EAP の **Download** リンクをクリックし **fuse-eap-installer-6.3.0.redhat-187.jar** ます。
3. JBoss EAP の新規インスタンスで、`$EAP_Home` に移動します。
4. 以下のコマンドを使用してインストーラーを実行します。

```
java -jar <tempLocation>/fuse-eap-installer-6.3.0.redhat-187.jar
```

JBOSS EAP への KIE-EAP のインストール

1. Fuse 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページにアクセスします（詳細はを「[JBoss Fuse 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス](#)」参照してください）。
2. Integration Pack for Red Hat JBoss Fuse 6.3.0 on EAP、BRMS 6.3 Update 3、および BPM Suite 6.3 Update 3 インストーラーの **Download** リンクをクリックし、**fuse-integration-eap-full-1.5.0.redhat-630018-installer.zip** ファイルをファイルシステムの一時的な場所にダウンロードし、展開します。

ディレクトリーに **kie-eap-installer-6.3.0.redhat-187.jar** ファイルが含まれていることを確認します。

3. JBoss Fuse 6.3 がインストールされている JBoss EAP のインスタンスで、`$EAP_Home` に移動します。
4. 以下のコマンドを使用してインストーラーを実行します。

```
java -jar <tempLocation>/kie-eap-installer-6.3.0.redhat-18.jar
```

RT-GOV サーバーコンポーネントのインストール

RT-Gov サーバーコンポーネントは、JBoss Fuse 6.3.0 および kie-eap の両方がインストールされている JBoss EAP のインスタンスにインストールする必要があります。作業を開始する前に、JBoss EAP サーバーが停止していることを確認します。

1. Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページにアクセスします（詳細はを「[JBoss Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス](#)」参照してください）。
2. Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.3.0 Run-Time Governance Server Installerの **Download** リンクをクリックし、**jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-server-installer.jar** ファイルをダウンロードします。
3. JBoss Fuse 6.3.0 と kie-eap の両方がインストールされている JBoss EAP のインスタンスで、`$EAP_Home` に移動します。
4. 以下のコマンドを実行してインストーラーを実行します。

```
java -jar <tempLocation>/jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-server-installer.jar
```

5. 以下のコマンドを使用して、インストール後のスクリプトを実行してパスワード vault を設定します。

```
./scripts/overlord/rtgov/install-overlord.sh [--setup-db]
```



注記

Overlord **admin**（デフォルト）ユーザーのパスワードを入力するように求められます。このパスワードは、RT-Gov サーバーがインストールされている JBoss EAP のこのインスタンスにアクセスするためのパスワードです。RT-Gov クライアントをインストールする場合は、クライアントのポストインストールスクリプトを実行する際にこのパスワードが必要になります。



注記

--setup-db 引数はオプションであり、RT-Gov サーバーのインストールでのみ機能します。これを使用すると、スクリプトは H2 データベースに必要なデータベーステーブルを設定します。H2 データベースはクイックスタート (`$EAP_HOME/quickstarts/overlord/rtgov`) の使用と実行に適していますが、実稼働環境には適していません。実稼働環境では、Red Hat では、サポートされているデータベースの1つに、**sql/rtgov** ディレクトリーにある **sql** を使用することを推奨します。

6. 以下のコマンドを使用して、standalone-full モードで JBoss EAP サーバーを起動します。

```
./bin/standalone.sh -c standalone-full.xml
```

RT-GOV クライアントコンポーネントのインストール

RT-Gov クライアントのインストールは任意です。JBoss Fuse 6.3.0 と kie-eap の両方がインストールされていて、RT-Gov サーバーとは異なるインスタンスに JBoss EAP がインストールされている場合は、JBoss EAP のインスタンスになければなりません。作業を開始する前に、JBoss EAP サーバーが停止していることを確認します。

1. Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページにアクセスします（詳細はを「[JBoss Fuse Service Works 6.3.0 ソフトウェアダウンロードページへのアクセス](#)」参照してください）。

2. Red Hat JBoss Fuse Service Works 6.3.0 Run-Time Governance Client Installerの **Download** リンクをクリックし、**jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-client-installer.jar** ファイルをダウンロードします。
3. JBoss EAP のインスタンスで、JBoss Fuse 6.3.0 と kie-eap の両方がインストールされていても RT-Gov サーバーがインストールされていない場合は、`$EAP_Home` に移動します。
4. 以下のコマンドを実行してインストーラーを実行します。

```
java -jar <tempLocation>/jboss-rtgov-6.3.0.redhat-2-client-installer.jar
```

5. 以下のコマンドを使用して、インストール後のスクリプトを実行してパスワード vault を設定します。

```
./scripts/overlord/rtgov/install-overlord.sh
```

最初に、Overlord **admin**（デフォルト）ユーザーのパスワードを入力するようにスクリプトが要求されます。このパスワードは、RT-Gov クライアントがインストールされている JBoss EAP のこのインスタンスにアクセスするためのパスワードです。

次に、スクリプトによりユーザー名の入力が必要で、RT-Gov サーバーがインストールされている EAP インスタンスへのアクセスに使用されるパスワードがスクリプトによって求められます。グラフィカルユーザーインターフェースにログインし、クライアントがサーバーに接続できるようにするには、これらの認証情報が必要です。RT-Gov サーバーコンポーネントをインストールする際に使用するユーザー名(default = `admin`)とパスワードを入力します。

6. `$EAP_Home/standalone/configuration/standalone-full.xml` ファイルを編集します。

- 以下を設定します。RESTActivityServer.serverURL RT-Gov サーバーインスタンスの正しい URL に対するプロパティの値：`rtgov-server-url` を実際の URL に置き換えます。

```
<parent>
<configuration name="overlord-rtgov">
  <properties>
    ...
  <property name="RESTActivityServer.serverURL" value="rtgov-server-url"/>
</configuration>
</parent>
```

- true **ActivityCollector.enabled** に設定します。

7. 以下のコマンドを使用して、standalone-full モードで RT-Gov クライアント EAP サーバーを起動します。

```
./bin/standalone.sh -c standalone-full.xml
```

RT-GOV データベース

rt-Gov は、最初に H2 データベースを使用するように設定されていますが、以下のリストから任意のデータベースを使用するように構成を変更できます。

- DB2
- Oracle 10g
- PostgreSQL

- MySQL 5 InnoDB
- SQLServer 2008



注記

H2 データベースで

```
>./scripts/overlord/rtgov/install-overlord.sh --setup-db
```

は、インストーラーを実行した後に、スキーマを自動的に作成します。ただし、その他のデータベースでは、データベースを手動で設定する必要があります。

手順3.1 RT-Gov データベースの設定

1. JBoss EAP のクリーンインストールの\$EAP_HOME ディレクトリーに移動します。
2. サポートされる各データベースのデータベーススキーマファイルはにあり **\$EAP_HOME/sql/rtgov/**ます。データベースに適したファイルを使用して、データベーススキーマを作成します。たとえば、PostgreSQL データベース **overlord-rtgov.PostgreSQLDialect.sql** を使用します。
3. [EAP データソース管理](#) の手順に従い、適切な JDBC ドライバーをインストールします。これらの手順では、さまざまな方法を使用して JDBC ドライバーを JBoss EAP にインストールする方法を説明します。
4. データベースの場所を定義し、ログイン基準を指定するには、データソース設定ファイルを更新する必要があります。データソース設定ファイルはにあり **\$EAP_HOME/modules/system/layers/rtgov/org/overlord/rtgov/eap/deployments/main/rtgov-ds.xml** ます。

以下のパラメーターを更新して、データベースの値を反映させます。

- connection-url - データベースのコネクション url を追加します。
 - Driver - データベースの JDBC ドライバー名を追加します。
 - user-id: データベースの管理者ログインを追加します。
 - password - admin ログインのパスワードを追加します。
5. RT-Gov エンティティーのマッチングダイジェクトを使用するように hibernate を設定するには、hibernate.dialect プロパティーを変更します。このダイジェクトはで定義されていて **\$EAP_HOME/standalone/configuration/standalone-full.xml**ます。以下に例を示します。

```
<configuration name="overlord-rtgov">
  <properties>
    ...
    <property name="hibernate.dialect" value="org.hibernate.dialect.PostgreSQLDialect"/>
```

この例では、PostgreSQLDialect が使用されます。インストール環境の要件に一致させるには、正しいダイアルを使用します。

